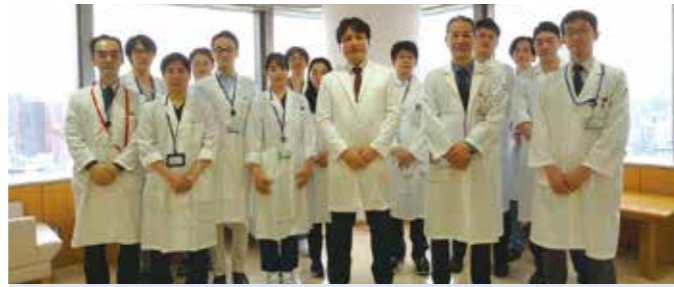


呼吸器外科：本物の手術を学ぼう

診療科としての人材育成のポイント

- 本邦随一の症例数を生かした密度の濃い手術教育
- 日本の肺癌診療をリードする関連診療科（呼吸器内科、病理診断科、呼吸器内視鏡科、放射線診断科、放射線治療科）研修により幅広い診療能力を修得可能
- センター内外で開催されるセミナー等の豊富な学習機会
- 研修希望者のニーズに合わせたフレキシブルな研修期間・研修内容



- NO.1**
- 「手術数でわかるいい病院 2021」
 - 「最新治療データで探す名医のいる病院 2021」
 - 「日経実力病院調査 2020-2021年版」

本邦随一の手術件数

当科は統計データがある2002年以降、原発性肺癌手術数が18年連続で全国一位を継続しています。レジデントはそれぞれ4件程度の手術を担当医として受け持ち、豊富な手術経験を積むことが可能です。また、肺葉切除・区域切除のような定型手術だけでなく、気管支・血管形成術、パノコースト腫瘍、胸膜切除/肺剥皮術のような拡大手術も数多く経験することができます。

- 2020年の全身麻酔手術889例
- 原発性肺癌 684例、転移性肺腫瘍 85例、縦隔腫瘍 60例、胸膜疾患 12例、その他 48例
- 原発性肺癌に対する区域切除と割合：2020年 227例（33.2%）、2019年 196例（29.9%）
- 2020年度はコロナ禍であっても、2019年度を上回る手術実績となりました。
- 早期肺腺癌の増加に伴い区域切除の割合が増加しています。当院では複雑区域切除を含め、多くの経験を積むことができます。

全国から手術見学者が訪れています

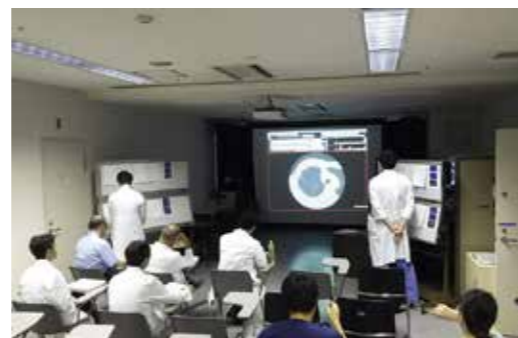
当科では、座学と手術見学を組み合わせたNCC training course for thoracic surgeryを定期的に開催し、2019年には50名以上の方が手術見学を行いました。是非、当科で研修し一流の手術を毎日学び、直接指導を受けることで呼吸器外科医としてのスキルアップを目指しましょう（写真はNCC training course for thoracic surgery：座学と手術見学の様子です）。

コロナ禍であっても手術見学は可能ですのでお問い合わせください。



術前術後カンファレンス

毎週金曜午前7:30から呼吸器外科の手術症例（術前・術後）を検討するカンファレンスを開催しています。各学会をリードする呼吸器内科医、放射線診断医、放射線治療医、呼吸器内視鏡医、病理医が参加して活発な議論が行われており、非常に勉強になる機会です。



メディア掲載情報

- AERA dot.
- 文春オンライン
- 夕刊フジ



研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院
呼吸器外科

教育担当：
中川加寿夫

メールアドレス：
kznakaga@ncc.go.jp

中央病院レジデントプログラム HP
<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/cepcd/resident/index.html>



Facebook 中央病院 教育・研修情報
<https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/>



研究成果の英文誌での報告

当科では手術を中心とした臨床能力を高めるだけでなく、臨床研究遂行能力も修得することが可能です。多くのレジデントが臨床研究の成果を一流誌で報告しています。またセンター内で日本臨床腫瘍グループ（JCOG）主催の統計セミナーなども頻りに開催されており、臨床研究の手法について学ぶ機会も豊富です。

臨床試験・エビデンスの創出に触れる

中央病院呼吸器外科科長 渡辺俊一は日本最大の臨床試験グループであるJCOG（日本臨床腫瘍研究グループ）の肺癌外科グループ代表を務めています。肺癌患者さんの治癒率の向上を目指してグループ内で多数の臨床試験を行い、世界に向けて情報発信を行っています。コアミーティングや班会議に参加することで、次世代の肺癌治療の流れを経験することができます。

研修希望者の能力とニーズに合わせた研修コース

多様なニーズに応えられるよう、2020年度より研修プログラムを改定しよりフレキシブルな研修が可能になりました。詳細については教育担当者までお問い合わせ下さい。

● 呼吸器外科レジデント 2年コース 研修内容

研修期間のうち1年以上呼吸器外科に在籍し、それ以外の期間は自由選択（※病院で定められたCCMの研修があり）

※呼吸器内科、放射線治療科、放射線診断科、病理科、内視鏡科等の希望診療科も研修可能

※3か月まで中央病院以外での研修が認められる

研修モデルコース（レジデント2年コースの場合）

<1年目>4～9月：呼吸器外科で手術の修練を積みみます。2-3か月目頃から徐々に執刀を経験できるようになります。

10～1月：病理診断科で呼吸器外科医に必要な肺癌病理を習得します。希望があれば研究論文作成にも挑戦します。

2～3月：呼吸器内視鏡科で気管支鏡診断の技術を学びます。気管支鏡専門医取得に必要な症例を経験することを目指します。

<2年目>4～5月：CCMローテーション

6～3月：呼吸器外科で多くの執刀を経験し手術手技のさらなる向上に臨みます。

*3年コースの場合、さらに呼吸器外科をローテーションし多くの経験を積みみます。また他科研修も長く確保することができます。

学会セミナー等で演者を務めています



当院で研修された先生方の感想

私は、46期外科正規レジデントとして各外科を3か月毎にローテートし、3年間の外科修練を終えた後、28期がん専門修練医として2年間勤めました。中央病院呼吸器外科は日本の肺癌外科治療を牽引してきたプロフェッショナルな集団です。その中でがん専門修練医は手術全般のマネージメントを任せられます。患者さんの術前リスク因子の把握、手術日程の調整、周術期管理、退院後救急対応、他科との連携など仕事内容は多岐に渡ります。

加えて、中央病院での呼吸器外科手術は1年間で約750件に及ぶため、修練医は短期間で圧倒的な症例数を経験することができます。日々CT画像から血管・気管支の走行を考え、手術で確認するという作業を繰り返すことであらゆる術式、あらゆる解剖を体感し、まさに身体で覚えるということを実感します。このような手術漬けの中で私自身約600件の手術に参加したことで、外科医として研鑽を積むことができ自信となりました。

修練医2年目は主に病理科で診断学を勉強し、年間200件近くの胸部腫瘍性疾患の診断を行いました。ここでも数多くの症例を診断することで胸部腫瘍性疾患の病理をほぼ網羅でき、深い知識を得ることが出来ました。さらに中央病院は研究においても非常に恵まれた環境にあり、私は当院での肺尖部胸壁浸潤癌をまとめた報告や遺伝子異常を呈する肺癌の臨床病理学的特徴に関する報告などを報告し、国際学会でも発表する機会をいただくことが出来ました。

このようにがんセンター中央病院での2年間は非常に濃く、かけがえのない時間でした。もしがんセンター中央病院で研修をと考えていらっしゃる先生方がいれば是非門戸を叩いてください。思っているより敷居は高くありません。私は、一人でも多くの患者さんを救いたいという熱い志を持った周りの同僚たちやスタッフの先生方、ナースの方々、そしてコメディカルの方々に恵まれ充実した研修生活を送ることが出来ました。ここまで支えてくださったすべての方々と私の家族にこの場をかりて感謝を申し上げます。有難うございました。

2014年4月～2017年3月 外科正規レジデント
2017年4月～2019年3月 28期がん専門修練医 呼吸器外科コース 内田真介

最新の研修情報はこちらから

<https://www.facebook.com/NCCH.ThoracicSurgery>



レジデントプログラム ■ 呼吸器外科

§ 推奨するコース

●レジデント2年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:外科専門医
研修目的	・ 専門医取得:呼吸器外科専門医 ・ 機会に応じて、国内全国学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
研修内容	研修期間のうち1年以上呼吸器外科に在籍する ※呼吸器内科、放射線治療科、放射線診断科、病理科、内視鏡科等の希望診療科も研修可能
研修期間	2年 ※そのうち一定期間の交流研修を認める ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	・ 本邦随一の症例数を生かした密度の濃い手術教育 ・ 日本の肺癌診療をリードする関連診療科(呼吸器内科、病理科、呼吸器内視鏡科、放射線診断科、放射線治療科)研修により幅広い診療能力を修得可能 ・ センター内外で開催されるセミナー等の豊富な学習機会 ・ 研修希望者のニーズに合わせたフレキシブルな研修期間・研修内容
その他 (症例数や手術件数など)	2019年の全身麻酔手術845例:原発性肺癌659例、転移性肺腫瘍88例、縦隔腫瘍46例、胸膜疾患8例、その他44例 原発性肺癌に対する区域切除数と割合:2019年196例(29.7%)、2018年154例(25.9%)

●レジデント3年コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:外科専門医
研修目的	・ 専門医取得:呼吸器外科専門医 ・ 機会に応じて、国内全国学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
研修内容	研修期間のうち1年以上呼吸器外科に在籍する ※呼吸器内科、放射線治療科、放射線診断科、病理科、内視鏡科等の希望診療科も研修可能
研修期間	3年 ※そのうち一定期間の交流研修を認める ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	・ 本邦随一の症例数を生かした密度の濃い手術教育 ・ 日本の肺癌診療をリードする関連診療科(呼吸器内科、病理科、呼吸器内視鏡科、放射線診断科、放射線治療科)研修により幅広い診療能力を修得可能 ・ センター内外で開催されるセミナー等の豊富な学習機会 ・ 研修希望者のニーズに合わせたフレキシブルな研修期間・研修内容
その他 (症例数や手術件数など)	2019年の全身麻酔手術845例:原発性肺癌659例、転移性肺腫瘍88例、縦隔腫瘍46例、胸膜疾患8例、その他44例 原発性肺癌に対する区域切除数と割合:2019年196例(29.7%)、2018年154例(25.9%)

§ 副次的なコース

●がん専門修練医コース

対象者	・ 新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す者 ※サブスペシャリティ領域専門医:呼吸器外科専門医 ・ 当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する者
研修目的	・ 肺癌を中心とする胸部悪性腫瘍における手術治療、集学的治療、周術期管理等、高度な知識、技能を習得する ・ 呼吸器外科専門医の取得(未取得の場合) ・ 研究:国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は呼吸器外科に在籍する ※2年目は診療を離れ、研究所等でのリサーチに特化した研修が可能 ※一定期間の交流研修を認める
研修期間	2年 ※一定期間の交流研修を認める
研修の特色	・ 本邦随一の症例数を生かした密度の濃い手術教育 ・ 日本の肺癌診療をリードする呼吸器外科研修により幅広い診療能力を修得可能 ・ センター内外で開催されるセミナー等の豊富な学習機会
その他 (症例数や手術件数など)	2019年の全身麻酔手術845例:原発性肺癌659例、転移性肺腫瘍88例、縦隔腫瘍46例、胸膜疾患8例、その他44例 原発性肺癌に対する区域切除数と割合:2019年196例(29.7%)、2018年154例(25.9%)

●連携大学院コース

対象者	新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※基本領域専門医:外科専門医
研修目的	・ 専門医取得:呼吸器外科専門医 ・ 学位取得:社会人大学院制度(順天堂、慶應、慈恵医大、長崎大学等) ・ 研究:国際学会での筆頭演者、Peer review journalでの筆頭著者
研修内容	連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます
研修期間	レジデント2年+がん専門修練医2年 ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う ※病院の規定に基づきCCM研修を行う
研修の特色	・ 呼吸器外科専門医取得と同時に、学位取得を目指すコースです。 ・ 国立がん研究センターの診療、研究に基づく、専門医取得、学位取得が可能です。 ・ 本邦随一の症例数を生かした密度の濃い手術教育 ・ 日本の肺癌診療をリードする関連診療科(呼吸器内科、病理科、呼吸器内視鏡科、放射線診断科、放射線治療科)研修により幅広い診療能力を修得可能 ・ センター内外で開催されるセミナー等の豊富な学習機会 ・ 研修希望者のニーズに合わせたフレキシブルな研修期間・研修内容
その他 (症例数や手術件数など)	2019年の全身麻酔手術845例:原発性肺癌659例、転移性肺腫瘍88例、縦隔腫瘍46例、胸膜疾患8例、その他44例 原発性肺癌に対する区域切除数と割合:2019年196例(29.7%)、2018年154例(25.9%)

§ その他のコース

●レジデント短期コース

対象者: 希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方

期間・研修方法: 6か月~1年6か月。呼吸器外科研修(他科ローテーションも相談可)

※6か月を超える場合は病院の規定に基づき CCM 研修を行う